

5

地域別のまちづくりの方向

時代の大きな変革期にあって、本市がこれからも県東部地域の拠点都市として発展し続けるとともに、すべての市民が安心して心豊かに暮らしていくためには、それぞれの地域の特性を活かしたその地域ならではのまちづくりを、市民が主体性を発揮し、行政と役割を担い合いながら進めていくことが重要です。

このため、この基本計画では、歴史的な沿革や地理的条件、地域特性などを考慮して市内を6つの地域に区分し、それぞれについて「まちづくりの方向」を明らかにします。

- 地域区分**
- 西部地域**：原・浮島・愛鷹
 - 東部地域**：金岡・大岡・門池
 - 中央西地域**：今沢・片浜・第二
 - 中央地域**：第一・第五
 - 中央南地域**：第三・第四・大平
 - 南部地域**：静浦・内浦・西浦・戸田



西部地域（原・浮島・愛鷹）

地域の特徴

本地域は、愛鷹山麓や浮島沼、千本松原などの豊かな自然と、この恵みを受けた茶畑や水田が広がる自然景観に優れるとともに、北条早雲の旗揚げの城として名高い興国寺城跡や白隠禅師ゆかりの松蔭寺、市指定有形文化財の赤野観音堂など、数多くの歴史・文化資源を有しています。

また、愛鷹山麓に大企業が立地するとともに、地域内には、県東部地域の中核病院である市立病院をはじめ、救急隊員の知識・技術の向上や市民への応急手当の普及啓発を図る救急ワークステーションが設置されています。

原駅周辺は、商業や業務機能の集積が見られるとともに、鉄道・バス等地域の公共交通拠点としての役割を担っています。

浮島地区においては、新東名高速道路の（仮称）沼津サービスエリアの設置が予定されており、既存産業と結びついた、地域振興の新たな拠点として期待されます。

しかしながら、愛鷹山麓などでは、ごみの不法投棄が多発していることや、河川沿いなどの低平地では、湛水しやすい地理的条件に加え、水田の転作や盛土などから、集中豪雨等による浸水被害が発生していることなどが問題となっています。



まちづくりの方向

安全・安心を実感し、 自然と歴史の息吹を感じる快適なまち

- 豊かな自然や歴史・文化資源の保全と活用を図り、特色ある景観を持つ、自然と歴史を感じるまちづくりを進めます。
- 治水対策や災害活動拠点施設の整備を推進するとともに、ごみの不法投棄対策に努め、安全・安心を実感できる、住みよいまちづくりを進めます。
- 茶や米をはじめとする、第一次産業の振興を図ります。
- （仮称）沼津サービスエリアの活用や原駅前の整備など、地域のにぎわいづくりを進めます。

東部地域（金岡・大岡・門池）

地域の特性

本地域には、東名沼津インターチェンジが位置し、東駿河湾環状道路や国道1号、246号、414号などの主要幹線道路などが結節する市北部の交通の拠点となっています。

中でも、東名沼津インターチェンジ周辺は、飲食店などの商業施設をはじめ、企業や研究機関などが集積しています。

また、地域内に立地する少年自然の家や愛鷹運動公園、門池公園などでは、身近に自然を感じることができる市民の憩いの場として、子どもから高齢者まで、多くの市民に親しまれています。

沼津と三島の間位置し、交通利便性の高い本地域は、市内で最も多くの人口を有する地域です。

しかしながら、急速に宅地化が進んだため、生活道路や下水道などの生活基盤の整備の遅れや、一部地域における河川の治水対策などの課題を抱えており、快適な生活環境の確保が求められています。



まちづくりの方向

人・ものが行き交うにぎわいと、 快適な生活環境が調和したまち

- 主要幹線道路の結節点としての立地条件を活かし、北の玄関口としての整備や、良質な住宅地の形成を進めるとともに、商業や業務、飲食、娯楽など、様々な機能の集積を促進し、にぎわいのあるまちづくりを進めます。
- 愛鷹運動公園や門池公園の利活用をはじめ、黄瀬川、狩野川の水辺空間を活かした整備など、住む人、訪れる人が自然と触れ合える環境づくりを進めます。
- 生活道路や下水道等の生活基盤の整備や治水対策などを進め、快適な生活環境の実現に努めます。

中央西地域（今沢・片浜・第二）

地域の特徴

本地域は、千本松原や狩野川、沼津港など、本市ならではの素晴らしい表情を有しています。

この千本松原から沼津港、狩野川へと続くエリアは、市民の憩いの場・触れ合いの場として、また、近年はジョギングやウォーキングコースとして、多くの人々に親しまれるとともに、井上靖や若山牧水といった本市ゆかりの文人たちの文学碑や庄司美術館など、芸術・文化資源が点在しています。

沼津港は、沼津港港湾振興ビジョンに基づき整備が進められ、海と新鮮な食を楽しむことができるスポットとして、多くの観光客でにぎわっています。

また、片浜地域に広がる片浜工業地域には、ものづくりに関連する中小の企業が集積し、本市の工業振興の一翼を担っています。

しかしながら、沼川流域など、大雨等による浸水被害が発生している地域があり、着実な治水対策の推進が必要となっています。



まちづくりの方向

海辺でつなぐにぎわいと、 活力ある産業が息づくまち

- 千本松原から狩野川にかけての景観や豊富な芸術・文化資源を活かし、住む人や訪れる人にとって、魅力を感じるまちづくりを進めます。
- 沼津港の整備を進めるとともに、中心市街地との交通ネットワークを強化し、回遊性の高いにぎわいのあるまちづくりを進めます。
- 中小の企業等が集積している片浜工業地域においては、道路や排水路など産業基盤の整備を通じて、地域産業の活性化を図ります。
- 沼川流域などの治水対策や、道路、公園等の整備を進め、安全・安心で快適な居住環境の創出に努めます。

中央地域（第一・第五）

地域の特性

本地域には、JR沼津駅周辺の大型商業施設をはじめ、駅南北に12もの商店街が立地するとともに、多くの企業の事務所や国・県等の公共機関があり、県東部地域を代表する商業や業務機能などの集積地となっています。

駅北側には小中学校や高等学校が集積する文教地区を形成するとともに、西側には工場などが集積する工業地区、南側には、狩野川を活かした潤いのある水辺空間が広がるなど、多彩な「かお」を有しており、人・もの・情報の交流拠点として、本市のみならず、県東部地域の中心地としての役割を担っています。

市内の定住人口の減少が進む中、マンションの増加に伴い、人口増加が見られる沼津駅周辺においては、今後の本市及び県東部地域の発展を見据え、東部コンベンションセンターの建設や土地区画整理などにより、さらにグレードの高いまちづくりが進められています。



まちづくりの方向

人が集まり、人が育つ、 県東部の「かお」となるまち

- 都市景観に配慮しながら、さらに高度な都市機能の集積や土地利用の高度化、商店街の活性化などに努め、多様な人々が集う県東部地域の「かお」にふさわしいまちづくりを進めます。
- 本市のみならず、県東部地域の拠点地域として、様々な都市機能が集積する利便性の高さを活かしながら、安全・安心を感じ、快適に暮らすことのできる質の高い居住環境の創出に努めます。
- 商業・業務地区、文教地区、工業地区など、それぞれの地区の特性に応じたまちづくりをはじめ、沼津駅周辺と沼津港との連携強化、狩野川を中心としたにぎわいと憩いの場の創出などに努め、住む人、訪れる人など、誰にとっても便利で魅力あるまちづくりを進めます。

中央南地域（第三・第四・大平）

地域の特性

本地域は、雄大な駿河湾を望む美しい牛臥・島郷海岸をはじめ、市民生活に潤いと安らぎを与える香貫山や狩野川など、海、山、川の豊かな自然に恵まれ、閑静な住宅地が広がるとともに、地域を南北に貫き、本市と伊豆地域をつなぐ国道414号沿いには飲食店をはじめ、商業や業務施設などの集積が見られます。

また、大平地区では優良な水田が広がり、水稻の安定生産が行われるとともに、国道414号静浦バイパスの整備による地域の活性化が期待されています。

一方で、伊豆方面への交通が生活空間に流入していることや、香貫山の防災対策、沼津江川などの水質改善、大平地区などにおける治水対策等、生活環境の向上が課題となっています。



まちづくりの方向

良質な居住環境と、 海・山・川の豊かな自然が共存する、 快適で人が集まるまち

- 駿河湾や香貫山、狩野川など、豊かな自然環境の保全に努めるとともに、御用邸記念公園などの歴史・文化資源とのネットワークを強化するなど、地域資源の活用を図ります。
- 土砂災害や河川の浸水被害など、自然災害対策を進め、安全・安心な住みよいまちづくりを進めます。
- 生活道路や下水道などの生活基盤の整備や、沼津江川や塚田川の河川の水質改善に向けた取組などにより、快適な生活環境づくりを進めます。
- 農業との調和を図りつつ、中心市街地とのアクセスを強化する国道414号静浦バイパスの整備を促進し、計画的で秩序ある土地利用を検討します。

南部地域（静浦・内浦・西浦・戸田）

地域の特性

本地域は、変化に富んだ奥駿河湾の海岸線や、四季折々の変化に富む達磨山山系に囲まれた風光明媚な地域で、この豊かな自然の恵みを受けた近海漁業や養殖などの水産業をはじめ、あじのひものや温州みかん、たちばなや戸田塩など、本市の特産物を支える主要な地域となっています。

また、日本有数のダイビングエリアである大瀬崎をはじめ、らららサンビーチ、御浜岬、マリーナなど、海に関するにぎわいスポットを有するとともに、長浜城跡、松城邸などの歴史・文化資源、河内の大杉や大瀬崎のジャクシン樹林、北山の棚田などの自然資源があります。

しかし、本地域は、市内の中でも最も高齢化が進んでおり、65歳以上の高齢化率は30%を超え、第1次産業や観光業などの地域産業従事者の高齢化や担い手不足などの問題を抱えています。こうした高齢化の進行に対応した地域産業の活性化をはじめ、交通基盤整備の強化が求められているほか、東海地震に備えた津波対策など、大規模災害への対応も重要となっています。



まちづくりの方向

自然と共生した、 住んでよく訪れて楽しいまち

- 駿河湾の豊かさを活かした水産業や、山間地を利用した西浦みかんなどの農業、自然の恵みを最大限に活用した観光業等の基盤整備や担い手育成などにより、地域産業の振興を図ります。
- 海の魅力を活かした施設や歴史・文化資源、自然資源など、豊富な地域資源の連携を図り、訪れたい楽しいまちづくりを進めます。
- 市中心部と連結する主要地方道沼津土肥線の整備を促進し、日常生活を支える交通ネットワークの強化に努めます。
- 津波や土砂災害などの自然災害対策を進め、安全・安心に暮らすことのできるまちづくりを進めます。